



ONTAP tools for VMware vSphere向けセキュリティ強化ガイド

Enterprise applications

NetApp
February 10, 2026

目次

ONTAP tools for VMware vSphere向けセキュリティ強化ガイド	1
ONTAP tools for VMware vSphere 9.13向けセキュリティ強化ガイド	1
ONTAP Tools for VMware vSphere 9.13インストールパッケージの整合性の検証	1
ONTAP tools OVAの署名の確認	1
ONTAP tools ISOおよびSRA tar.gzの署名の確認	2
ONTAP tools 9.13のポートとプロトコル	3
OTVに必要なインバウンドおよびアウトバウンドポート	3
Derbyデータベースへのリモートアクセスの制御	4
ONTAP Tools for VMware vSphere 9.13アクセスポイント（ユーザ）	4
1.システムユーザ	4
2.アプリケーションユーザ	5
3.サポートユーザ（diagユーザ）	5
ONTAP tools 9.13相互TLS（証明書ベースの認証）	5
ONTAP	5
ONTAP tools 9.13 HTTPS証明書	11
ONTAP tools 9.13のログインバナー	11
ONTAP tools 9.13での非アクティブ時のタイムアウト	12
ユーザーあたりの最大同時要求数（ネットワークセキュリティ保護/ DOS攻撃） VMware vSphere 9.13向けONTAPツール	12
ONTAP tools 9.13のネットワークタイムプロトコル（NTP）の設定	13
仮想アプライアンス	13
* Debian *	13
ONTAP tools 9.13のパスワードポリシー	13

ONTAP tools for VMware vSphere向けセキュリティ強化ガイド

ONTAP tools for VMware vSphere 9.13向けセキュリティ強化ガイド

ONTAP tools for VMware vSphereのセキュリティ強化ガイドには、最も安全な設定を構成するための包括的な手順が記載されています。

これらのガイドは、アプライアンス自体のアプリケーションとゲストOSの両方に適用されます。

ONTAP Tools for VMware vSphere 9.13インストールパッケージの整合性の検証

ONTAP toolsインストールパッケージの整合性を検証するには、2つの方法があります。

1. チェックサムの確認
2. シグネチャの検証

チェックサムは、OTVインストールパッケージのダウンロードページで提供されています。ダウンロードしたパッケージのチェックサムを、ダウンロードページに表示されているチェックサムと照合して確認する必要があります。

ONTAP tools OVAの署名の確認

vAppインストールパッケージはtarball形式で提供されます。このtarballには、仮想アプライアンスの中間証明書とルート証明書、READMEファイル、OVAパッケージが含まれています。READMEファイルには、vApp OVAパッケージの整合性を検証する方法が記載されています。

また、提供されたルート証明書と中間証明書をvCenterバージョン7.0U3E以降にアップロードする必要があります。vCenterのバージョン7.0.1から7.0.U3Eの場合、証明書を検証する機能はVMwareではサポートされていません。vCenterバージョン6.xの証明書はアップロードする必要はありません。

信頼されたルート証明書のvCenterへのアップロード

1. VMware vSphere ClientでvCenter Serverにログインします。
2. administrator@vsphere.localまたはvCenter Single Sign-On Administratorsグループの別のメンバーのユーザ名とパスワードを指定します。インストール時に別のドメインを指定した場合は、administrator@mydomainとしてログインします。
3. 証明書管理UIに移動します。a.[ホーム]メニューから[管理]を選択します。b.[証明書]で、[証明書管理]をクリックします。
4. プロンプトが表示されたら、vCenter Serverのクレデンシャルを入力します。
5. [信頼されたルート証明書]で、[追加]をクリックします。
6. [browse]をクリックし、証明書の.pemファイル (otv_ova_inter_root_cert_chain.pem) の場所を選択しま

す。

7. 追加をクリックします。証明書がストアに追加されます。

を参照してください "[証明書ストアへの信頼されたルート証明書の追加](#)" を参照してください。（OVAファイルを使用して）vAppを導入する際、vAppパッケージのデジタル署名は[Review details]ページで確認できます。ダウンロードしたvAppパッケージが正規のものである場合は、[発行者]列に[信頼された証明書]と表示されます（次のスクリーンショットを参照）。

Deploy OVF Template

- 1 Select an OVF template
- 2 Select a name and folder
- 3 Select a compute resource
- 4 Review details**
- 5 License agreements
- 6 Select storage
- 7 Select networks
- 8 Customize template
- 9 Ready to complete

Review details
Verify the template details.

Publisher	Entrust Code Signing CA - OVCS2 (Trusted certificate)
Product	Virtual Appliance - NetApp Inc. ONTAP tools for VMware vSphere
Version	See appliance for version
Vendor	NetApp Inc.
Description	Virtual Appliance - NetApp Inc. ONTAP tools for VMware vSphere for netapp storage systems. For more information or support please visit https://www.netapp.com/
Download size	2.2 GB
Size on disk	3.9 GB (thin provisioned) 53.0 GB (thick provisioned)

Activate
Go to Sys

CANCEL BACK NEXT

ONTAP tools ISOおよびSRA tar.gzの署名の確認

NetAppは、製品ダウンロードページでコード署名証明書をお客様と共有し、OTV-ISOおよびsra.tgzの製品zipファイルも提供しています。

コード署名証明書から、ユーザーは次のように公開鍵を抽出できます。

```
#> openssl x509 -in <code-sign-cert, pem file> -pubkey -noout > <public-key name>
```

公開鍵を使用して、以下のようにISOおよびtgz製品zipの署名を検証する必要があります。

```
#> openssl dgst -sha256 -verify <public-key> -signature <signature-file>
<binary-name>
```

例

```
#> openssl x509 -in OTV_ISO_CERT.pem -pubkey -noout > OTV_ISO.pub
#> openssl dgst -sha256 -verify OTV_ISO.pub -signature netapp-ontap-tools-
for-vmware-vsphere-9.12-upgrade-iso.sig netapp-ontap-tools-for-vmware-
vsphere-9.12-upgrade.iso
Verified OK => response
```

ONTAP tools 9.13のポートとプロトコル

ここでは、ONTAP tools for VMware vSphereサーバと、管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントなどのエンティティ間の通信に必要なポートとプロトコルを示します。

OTVに必要なインバウンドおよびアウトバウンドポート

次の表に、ONTAP toolsが適切に機能するために必要なインバウンドポートとアウトバウンドポートを示します。表に記載されているポートだけがリモートマシンからの接続用に開いていることを確認し、他のすべてのポートはリモートマシンからの接続用にブロックする必要があります。これにより、システムのセキュリティと安全性が確保されます。

次の表に、オープンポートの詳細を示します。

* TCP v4/V6ポート番号*	* 方向 *	機能
8143	インバウンド	REST API 用の HTTPS 接続
8043	インバウンド	HTTPS 接続
9060	インバウンド	HTTPS接続+ SOAP over HTTPS接続に使用+ クライアントがONTAP tools APIサーバに接続できるようにするには、このポートを開く必要があります。
22	インバウンド	SSH (デフォルトでは無効)
9080	インバウンド	HTTPS 接続 - VP および SRA - ループバックからの内部接続のみ
9083年だ	インバウンド	HTTPS接続- VPおよびSRA+ SOAP over HTTPS接続に使用
一一六二	インバウンド	VP SNMP トラップパケット
8443	インバウンド	リモートプラグイン
1527年	内部のみ	Derbyデータベースポート、このコンピュータとそれ自体の間のみ、外部接続は許可されません-内部接続のみ

* TCP v4/V6ポート番号*	* 方向 *	機能
8150	内部のみ	ログ整合性サービスはポートで実行されます
443	双方向	ONTAP クラスタへの接続に使用します

Derbyデータベースへのリモートアクセスの制御

管理者は、次のコマンドを使用してDerbyデータベースにアクセスできます。ONTAP toolsのローカルVMとリモートサーバからアクセスするには、次の手順を実行します。

```
java -classpath "/opt/netapp/vpserver/lib/*" org.apache.derby.tools.ij;
connect 'jdbc:derby://<OTV-
IP>:1527//opt/netapp/vpserver/vvoldb;user=<user>;password=<password>';
```

例：

```
root@UnifiedVSC:~# java -classpath "/opt/netapp/vpserver/lib/*" org.apache.derby.tools.ij;
ij version 10.15
ij> connect 'jdbc:derby://localhost:1527//opt/netapp/vpserver/vvoldb;user=app;password=
ij> show tables;
TABLE_SCHEM      |TABLE_NAME      |REMARKS
-----
SYS              |SYSALIASES      |
SYS              |SYSCHECKS       |
SYS              |SYSCOLPERMS     |
SYS              |SYSCOLUMNS     |
SYS              |SYSCONGLOMERATES|
SYS              |SYSCONSTRAINTS  |
SYS              |SYSDEPENDS      |
SYS              |SYSFILES        |
SYS              |SYSFOREIGNKEYS  |
SYS              |SYSKEYS         |
SYS              |SYSPERMS        |
```

ONTAP Tools for VMware vSphere 9.13アクセスポイント（ユーザ）

ONTAP Tools for VMware vSphereをインストールすると、次の3種類のユーザが作成され、使用されます。

1. システムユーザ：rootユーザアカウント
2. アプリケーションユーザ：管理者ユーザ、maintユーザ、およびdbユーザアカウント
3. サポートユーザ：diagユーザアカウント

1. システムユーザ

システム(root)ユーザは、基盤となるオペレーティングシステム(Debian)にインストールされたONTAPツールによって作成されます。

- ONTAP toolsのインストールにより、デフォルトのシステムユーザ"root"がDebian上に作成されます。デフォルトでは無効になっており、「メンテナンス」コンソールから個別に有効にすることができます。

2.アプリケーションユーザ

ONTAP toolsでは、アプリケーションユーザの名前はローカルユーザです。これらは、ONTAP toolsアプリケーションで作成されたユーザです。次の表に、アプリケーションユーザのタイプを示します。

* ユーザー *	* 概要 *
管理者ユーザ	ONTAP toolsのインストール時に作成され、ONTAP toolsの導入時にユーザがクレデンシャルを指定します。ユーザは「maint」コンソールで「password」を変更できます。パスワードの有効期限は90日で、ユーザは同じパスワードを変更する必要があります。
メンテナンスユーザ	ONTAP toolsのインストール時に作成され、ONTAP toolsの導入時にユーザがクレデンシャルを指定します。ユーザは「maint」コンソールで「password」を変更できます。これはメンテナンスユーザで、メンテナンスコンソールの処理を実行するために作成されます。
データベースユーザ	ONTAP toolsのインストール時に作成され、ONTAP toolsの導入時にユーザがクレデンシャルを指定します。ユーザは「maint」コンソールで「password」を変更できます。パスワードの有効期限は90日で、ユーザは同じパスワードを変更する必要があります。

3.サポートユーザ（diagユーザ）

ONTAP toolsのインストール中に、サポートユーザが作成されます。このユーザを使用して、サーバで問題や停止が発生した場合にONTAPツールにアクセスしたり、ログを収集したりできます。デフォルトでは、このユーザは無効になっていますが、「メンテナンス」コンソールからアドホックで有効にすることができます。このユーザーは一定期間後に自動的に無効になることに注意することが重要です。

ONTAP tools 9.13相互TLS（証明書ベースの認証）

ONTAPバージョン9.7以降では、相互TLS通信がサポートされます。ONTAP Tools for VMwareおよびvSphere 9.12以降では、新しく追加したクラスタとの通信に相互TLSが使用されます（ONTAPのバージョンによって異なります）。

ONTAP

以前に追加されたすべてのストレージシステム：アップグレード中に、追加されたすべてのストレージシステムが自動信頼され、証明書ベースの認証メカニズムが設定されます。

下のスクリーンショットのように、[クラスタセットアップ]ページには、各クラスタに対して設定されたMutual TLS（証明書ベースの認証）のステータスが表示されます。

Storage Systems

ADD REDISCOVER ALL

Name	Type	IP Address	ONTAP Release	Status	Capacity	NFS VAAI	Supported Protocols
CL_sti2l-vsrm-ucs58im_1678878260	Cluster	10.224.85.142	9.12.0	Normal	20.42%		

Storage Systems per page: 10 1 Item

クラスタの追加

クラスタ追加のワークフロー中に、追加するクラスタがMTLSをサポートしている場合、MTLSはデフォルトで設定されます。ユーザはこの設定を行う必要はありません。次のスクリーンショットは、クラスタの追加時にユーザに表示される画面を示しています。

Add Storage System

i Any communication between ONTAP tools plug-in and the storage system should be mutually authenticated.

vCenter server 10.224.58.52 ▾

Name or IP address:

Username:

Password:

Port: 443

Advanced options ^

ONTAP Cluster Certificate: Automatically fetch Manually upload

CANCEL ADD

Add Storage System

 Any communication between ONTAP tools plug-in and the storage system should be mutually authenticated.

vCenter server	10.224.58.52 
Name or IP address:	10.234.85.142
Username:	admin
Password:
Port:	443
Advanced options	

CANCEL

ADD

Add Storage System

 Any communication between ONTAP tools plug-in and the storage system should be mutually authenticated.

vCenter server

10.234.85.52

Authorize Cluster Certificate

Host 10.234.85.142 has identified itself with a self-signed certificate.

[Show certificate](#)

Do you want to trust this certificate?

NO

YES

CANCEL

ADD

Authorize Cluster Certificate

Host 10.234.85.142 has identified itself with a self-signed certificate.

[Hide certificate](#)

Certificate Information

This certificate identifies the 10.234.85.142 host.

Issued By

Name (CN or DN): C1_sti21-vsimg-ucs581m_1678878260

Issued To

Name (CN or DN): C1_sti21-vsimg-ucs581m_1678878260

Validity

Issued On: 03/15/2023 11:16:06

Expires On: 03/14/2024 11:16:06

Fingerprint Information

SHA-1 Fingerprint: 2C:38:E3:5C:4B:F3:5D:3F:39:C8:CE:4A:8
2:C1:A6:EE:34:53:A0:F3

SHA-256 Fingerprint: 05:0F:FE:CD:B0:C6:FC:6F:EB:8A:FC:86:F
7:E3:EF:D4:8D:CA:02:92:9B:E1:A4:70:84:
52:F8:76:98:64:FA:23

Do you want to trust this certificate?

NO

YES

クラスタの編集

クラスタの編集処理には、次の2つのシナリオがあります。

- ONTAP証明書の有効期限が切れた場合、ユーザは新しい証明書を取得してアップロードする必要があります。
- OTV証明書の有効期限が切れた場合は、チェックボックスをオンにして証明書を再生成できます。
 - ONTAPの新しいクライアント証明書を生成します。 _

Modify Storage System

Settings Provisioning Options

IP address or hostname: ▼

Port:

Username:

Password:

Upload Certificate (Optional) [BROWSE](#)

Skip monitoring of this storage system

Generate a new client certificate for ONTAP

CANCEL

OK



ONTAP tools 9.13 HTTPS証明書

デフォルトでは、ONTAP toolsは、Web UIへのHTTPSアクセスを保護するために、インストール時に自動的に作成される自己署名証明書を使用します。ONTAP toolsには次の機能があります。

1. HTTPS証明書の再生成

ONTAP toolsのインストール時に、HTTPS CA証明書がインストールされ、証明書がキーストアに格納されます。ユーザは、maintコンソールを使用してHTTPS証明書を再生成することができます。

上記のオプションは、'アプリケーション設定'→'証明書の再生成'に移動することで `_maint_console` でアクセスできます。

ONTAP tools 9.13のログインバナー

ユーザがログインプロンプトにユーザ名を入力すると、次のログインバナーが表示され

ます。SSHはデフォルトでは無効になっており、VMコンソールから有効にした場合は1回限りのログインが許可されます。

```
WARNING: Unauthorized access to this system is forbidden and will be
prosecuted by law. By accessing this system, you agree that your actions
may be monitored if unauthorized usage is suspected.
```

ユーザがSSHチャンネルを介したログインを完了すると、次のテキストが表示されます。

```
Linux UnifiedVSC 5.10.0-21-amd64 #1 SMP Debian 5.10.162-1 (2023-01-21)
x86_64
```

```
The programs included with the Debian GNU/Linux system are free software;
the exact distribution terms for each program are described in the
individual files in /usr/share/doc/*/copyright.
```

```
Debian GNU/Linux comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY, to the extent
permitted by applicable law.
```

ONTAP tools 9.13での非アクティブ時のタイムアウト

不正アクセスを防止するために、非アクティブタイムアウトが設定されます。このタイムアウトは、許可されたリソースを使用している間、一定期間非アクティブなユーザを自動的にログアウトします。これにより、許可されたユーザーのみがリソースにアクセスできるようになり、セキュリティの維持に役立ちます。

- デフォルトでは、vSphere Clientセッションはアイドル状態が120分続くと閉じます。そのため、ユーザは再度ログインしてクライアントの使用を再開する必要があります。タイムアウト値を変更するには、webclient.propertiesファイルを編集します。vSphere Clientのタイムアウトを設定できます。["vSphere Clientのタイムアウト値の設定"](#)
- ONTAP toolsのWeb-CLIセッションのログアウト時間は30分です。

ユーザーあたりの最大同時要求数（ネットワークセキュリティ保護/ DOS攻撃）VMware vSphere 9.13向けONTAPツール

デフォルトでは、ユーザあたりの最大同時要求数は48です。ONTAP toolsのrootユーザは、環境の要件に応じてこの値を変更できます。この値は、DoS攻撃に対するメカニズムを提供するため、非常に大きな値に設定しないでください。

ユーザは、最大同時セッション数やサポートされているその他のパラメータを*_opt/netapp/vscserver/etc/dosfilterParams.json_*ファイルで変更できます。

フィルタを設定するには、次のパラメータを使用します。

- **delayMs**：レート制限を超えたすべての要求が考慮されるまでの遅延（ミリ秒単位）。要求を拒否するには-1を指定します。
- **throttlesMs**:セマフォの非同期待機時間
- **maxRequestms**：この要求の実行を許可する期間。
- **ipWhitelist**：レート制限されないIPアドレスのカンマ区切りリスト。（vCenter、ESXi、SRAのIP）
- **maxRequestsPerSec**：1秒あたりの接続からの最大要求数。

dosfilterParamsファイルのデフォルト値:

```
{"delayMs": "-1",  
"throttleMs": "1800000",  
"maxRequestMs": "300000",  
"ipWhitelist": "10.224.58.52",  
"maxRequestsPerSec": "48"}
```

ONTAP tools 9.13のネットワークタイムプロトコル（NTP）の設定

ネットワーク時間設定の不一致が原因で、セキュリティの問題が発生する場合があります。このような問題を防ぐには、ネットワーク内のすべてのデバイスに正確な時間設定があることを確認することが重要です。

仮想アプライアンス

NTPサーバは、仮想アプライアンスのメンテナンスコンソールから設定できます。ユーザは、*System Configuration*⇒*_ Add new NTP Server_option*でNTPサーバの詳細を追加できます。

デフォルトでは、NTPのサービスはntpdです。これはレガシーサービスであり、場合によっては仮想マシンでは適切に機能しません。

* Debian *

Debianでは、ユーザは/etc/ntp.confファイルにアクセスしてNTPサーバの詳細を確認できます。

ONTAP tools 9.13のパスワードポリシー

ONTAPツールを初めて導入するユーザ、またはバージョン9.12以降にアップグレードするユーザは、管理者ユーザとデータベースユーザの両方に対して、強力なパスワードポリシーに従う必要があります。導入プロセス中に、新しいユーザにパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。バージョン9.12以降にアップグレードするBrownfieldユーザの場合は、メンテナンスコンソールで強力なパスワードポリシーに従うオプションを使用できます。

- ユーザがmaintコンソールにログインすると、パスワードが複雑なルールセットに照らしてチェックされ、従わなかった場合、ユーザは同じパスワードをリセットするように求められます。
- パスワードのデフォルトの有効期間は90日です。75日が経過すると、ユーザはパスワードを変更するための通知を受け取り始めます。
- サイクルごとに新しいパスワードを設定する必要があります。システムは最後のパスワードを新しいパスワードとして受け取りません。
- ユーザがmaintコンソールにログインするたびに、メインメニューをロードする前に、次のスクリーンショットのようなパスワードポリシーがチェックされます。

```
Maintenance Console : "NetApp ONTAP tools for VMware vSphere"
Discovered interfaces: eth0 (ENABLED)
validating password policies
```

- パスワードポリシーまたはONTAP tools 9.11以前からのアップグレードセットアップに従っていないことが検出された場合。パスワードをリセットするための次の画面が表示されます。

```
Your Administrator and Database password is expired or does not match password policy:
-----
 1 ) Change 'administrator' user password
 2 ) Change database password
   x ) Exit
Enter your choice: _
```

- ユーザが弱いパスワードを設定しようとするか、最後のパスワードをもう一度入力すると、次のエラーが表示されます。

```
Changing password for administrator.
User: administrator
Enter new password:
Retype new password:

Password doesn't matches the password policy.
For security reasons, it is recommended to use a password that is of eight to thirty characters and
contains a minimum of one upper, one lower, one digit, and one special character.

Enter new password:
Retype new password:
Check if new decoder works ?
New decoder worked successfully
00-02/23 13:36:53 Your new password must be different

Error updating sra credential file

Press ENTER to continue._
```

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。